
付属資料Ⅳ. 検討委員会 委員からのコメント

1. 委員からの総括コメント（主なもの）

- 今回の調査で、保育事業者にとっても、自治体にとっても事務手続き等が煩雑になっている現状が改めて共有された。特に、法人規模の小さい施設を中心に、今回議論した業務効率化策を少しずつでも着実に実現していくことが重要である。
- 現状の保育現場の事務負担を軽減するために、業務効率化に向けた取り組みが重要であるだけでなく、待機児童解消後に地域の子育て拠点としての役割の強化や、新たなサービス展開を実現していくためにも、既存業務の効率化を進めておくことが重要である。

分類	内容
保育事業者の業務効率化に向けて	<ul style="list-style-type: none">• 今回の調査で、保育事業者にとっても、自治体にとっても事務手続き等が煩雑になっているとの現状が改めて共通認識として共有された点は、ひとつの成果である。特に、法人規模の小さい施設にとって、今回議論した効率化策の実現が重要である。• 効率化策の実現にあたっては、例えば運営費請求事務から等、難易度を考慮し、少しずつでもできるところから着実に成果を出していくことが重要である。• これまで、保育業界では待機児童対策を最優先の課題として注力してきたと思うが、現状では待機児童問題が徐々に解消されてきている。一方で、保育現場の業務負担は高く、現場がパンク状態になりつつある状況であると思う。そのような状況下で、ICT等を活用した効率化を図っていくことは重要である。• 効率化というのは、楽にするということだけでないと思う。現場力がつくためには、筋トレと一緒に、頑張ったからこそ力が付く部分もあると考えている。良い意味で活性を促すような仕組みになっていくことを望む。• 保育現場から事務員の増員を希望する声は少なからず挙がっている認識であるが、今回の効率化策が実現されれば、そういった声を挙げた現場の負担は軽減されることが期待できる。来年度以降、事務負担を軽減できるように、また様々なニーズを満たせるように、少しずつでも着実に前に進めていって欲しい。• 「保育の質向上」というキーワードが議論の中で何度か出てきたが、まさに重要なポイントであり、業務効率化との両立を目指して保育現場と自治体で一緒に尽力していけると良い。
待機児童解消後を見据えた展望	<ul style="list-style-type: none">• 待機児童問題が徐々に解消されてきて、保育の質にも目が向けられるようになってきている。今後、保育施設では、地域の子育て拠点としての役割を更に発揮していくことが求められる。• 今後、保育施設の空きスペース等のハード面を活用した新たなサービス展開が求められることが想定される。新たなサービス展開に向けて、保育施設の業務内容や人員配置の考え方も変化していくことが予想され、既存業務を効率化しておき、新たに発生する業務に人員等のリソースをシフトしていけるよう準備しておくことが求められる。今回議論した効率化策は、それに向けた重要な取り組みの位置付けになると思われる。
今後の課題（業務効率化以外）	<ul style="list-style-type: none">• 子ども、保護者の状況が昔とは大きく異なっており、小学校でもいじめや暴力といった問題が取り沙汰されているが、保育現場においても発達障害児に関するトラブルが発生している。そういった子どもたちの支援をどうしていくのかについて課題になっている。今後、単に親が子どもを預けるというだけの保育についての議論だけでなく、そういった子どもに対する支援をどのようにしていくのかについても議論ができるとう良い。